

小学校¹³

平成 10 年 度

教育研究員研究報告書

国 語

東京都教育委員会

平成10年度

教 育 研 究 員 名 簿

低学年Ⅰ分科会	台東川立飾戸川 品足葛江	平成赤第三伊葛船堀第二 羽野興飾第二 小野小 小興小 小飾小 小第二	□飯島嘉正 福島陽子 萩原美津江 藤崎俊子 大沼美恵子 加納美奈子
---------	-----------------	---	--

四学年分科会	墨田豊練調国分国立 田谷島馬布寺立 第一東高向飛第九国立第一 吾玉田山給九第一 嬌川小 小 小 小 小 小	守田由紀子 長沼和雄 ○河村祐好 磯崎照子 江見みどり 畠山倫子 岩堀百合子
--------	--	--

低学年Ⅱ分科会	中野並王子野 杉王王子野 八王王子野 八王王子野	鷺宮和泉大和田美山平 泉田山台 小泉小 小田小 小山小 小台小	長沼正城 片山記代 中村美奈子 □荒川知 宇留賀眞理子
---------	-----------------------------------	--	---

高学年分科会	江東板足東村江羽八 目黒橋立山江村丈 板橋立山江村丈 足立山江村丈 東村山江村丈 羽八	第四砂町中板橋鹿浜南台江第二富士見大 町根第六浜西台第二見郷 小 小 小 小 小 小 小 小 小 小	豊田純子 □内田和栄 ◎加賀田真理 青木久美 宮寺敏彦 吉川佐和子 宮當拓也 池田晋一
--------	--	---	--

三学年分科会	大田川馬飾戸川武蔵村山稻城 荒練葛江戸川武蔵村山稻城 練馬飾戸川武蔵村山稻城	大森第三小 ひぐらし第三小 練馬第三小 渋谷小 小松川第二小 第二小 稻城第三小	島川由美 三矢理恵 三浦恵美 石渡千枝子 西本敬子 土屋智子 □川崎肇
--------	--	--	---

◎ 全体世話人
○ 全体副世話人
□ 全体記録

担 当 教育庁指導部初等教育指導課指導主事 清 水 朋 子

目 次

I	共通研究主題及び基本的な考え方	
1	共通研究主題設定の理由	2
2	共通研究主題に対する基本的な考え方	2
II	研究の概要	
1	研究の内容と方法	3
2	研究主題イメージ図	4
3	研究の構想	5
4	表現する力とは	6
III	各分科会の実践	
1	各分科会実践の概要	8
2	各分科会における実践事例	
○	低学年Ⅰ分科会	9
	「きらきらシール」でともだちのいいところをもらおう	
○	低学年Ⅱ分科会	12
	「たんぼぼになって、楽しくずかんづくりをしよう」	
○	3学年分科会	15
	「友達との学び合いを通して、自分の考えを分かりやすく表現しよう」	
○	4学年分科会	18
	「ポスターセッションで表現を高めよう」	
○	高学年分科会	21
	「自分の成長について振り返り、考えを深め表現しよう！」	
IV	研究の成果と課題	24

〈要 約〉

国語科においては心豊かに表現し理解するために、言語能力を高めていくことと共に児童の思いや願いを大切に、自ら学習しようとする意欲を高め、児童が主体的に取り組めるような学習を創造していくことが求められている。

本研究では、言葉を大切にして主体的に表現する過程の中で、一人一人のよさを認め合い、共に考えを深めていく学び合いを生かした学習の工夫を通して、考えを深め、学習や生活に生かそうとする児童の育成を目指したものである。

I 共通研究主題及び基本的な考え方

共通研究主題 言葉を大切にし、進んで表現する子を育てる指導の工夫
— 自分の考えをもとに、友達と学び合う活動を通して —

1 研究主題設定の理由

これからの時代は自分を見つめ、心豊かに生きる心の時代とも言われ、いっそう豊かな人間性や自分らしさ、個性が求められている。また国際化が進んで人的交流がより活発になると、今まで以上に様々な人々と出会い、多様な価値観に触れる機会が増えるため、柔軟な適応力や社会性を養う必要性が増してくる。そして高度情報化社会により、世界中からやってくる膨大な量の情報に対して必要な情報を選別し、真偽やつながり、背景にある人々の思いや願いを読み取る力が必要とされてくる。同時に発信者として自分の考えを確立し、必要な相手に対して適切に伝える力も身に付けなければならない。

このような変化の激しい社会に対応するために、主体性のあるたくましい生き方が求められるようになる。

国語科では言葉を通して豊かな感性や言語感覚を磨き、心と心をつなぎ、人間関係をつくりあげていくことができるような言葉の使い手を育てていかななくてはならない。また的確に情報をとらえ論理的思考を積み上げ、自分の考えを分かりやすく伝えることにより、社会の中に自己を確立していく力も養っていく必要がある。そして自分らしさや自分の個性を肯定的にとらえ、自分自身を育てていく意欲や力の基盤を培いたい。自他の違いを発見し、よさを認め合い、共に考えを深めていくことができる学習活動を展開することにより、このような生きる力へとつながっていく表現する力を育てることが大切であると考え、本研究主題を設定した。

2 研究主題に対する基本的な考え方

私たちは、言葉を大切にし、進んで表現する望ましい児童の姿を、次のようにとらえた。

- 主体的に学び、進んで友達と学び合おうとする子
- 言葉をもとにして考え、いろいろな方法で表現する子
- 自分や友達のよさに気付き、共に考えを深める子

このような児童像を目指すために、次のような2つの基本的な考え方に立ち、学習指導の改善を図ることにした。

(1) 言葉を大切にし、進んで表現するとは

「言葉を大切にする」ということを、以下のようにとらえた。

- ・ 言葉から様子や気持ちなどに対する想像を広げる。
- ・ 思いや考えにふさわしい言葉を探す。
- ・ 言葉のいろいろな側面について知る。
- ・ 言葉に何度も立ち戻って考える。

- ・ 言葉の背景にある思いや願い、意志を伝えたい内容について想像する。
「進んで表現する」とは、次のような姿としてとらえた。

- ・ 自分の思いや考えを伝えようとする意欲をもつ。
- ・ 自分の思いや考えを、自分の言葉で伝える。
- ・ 相手や目的に応じて、自分に合った表現方法を選択する。
- ・ 分かりやすく効果的な表現方法を工夫する。

このような個々の表現活動を細かく見て取ることにより、児童一人一人の興味や関心、得意な学習方法、理解の深さなどを推しはかることができ、児童の学習の姿をより深く知ることが可能になる。また理解と表現は表裏一体であり、表現に目を向けることは、理解の充実にもつながっていくと考えた。十分な理解や言葉の力に裏付けられた表現力を育てることを目指している。

(2) 自分の考えをもとに、友達と学び合うとは

「自分の考えをもとに、友達と学び合う」児童の姿を、次のようにとらえた。

- ・ 自分と友達の考えを比べる。
- ・ 自分と同じ考えを見付けたり、考えを認めてもらったりすることにより、自分の考えに自信をもつ。
- ・ 友達の考えを参考にして、新しい見方や考え方に気付く。
- ・ 友達の考えのよいところを取り入れる。
- ・ 友達のよさに気付く。
- ・ 自分のよさに気付く。
- ・ 共に学ぶことの充実感を味わい、次の活動への意欲をもつ。

このような学び合う学習活動を通して様々な感じ方や考え方に触れることにより、言葉の世界を広げたり、自分の考えを深めたりすることができる。友達と楽しく学び合ったという学習経験は次の学習への意欲を引き出し、「友達と一緒に学び合ったから、こんなことに気が付くことができた。」「自分の意見でみんなの考えが豊かになった。」など、自他の存在を尊重しようとする態度を養うものと考えられる。

II 研究の概要

1 研究の内容と方法

(1) 研究の内容

研究主題にせまるために、次のような視点にそって研究を進めた。

- ① 児童が自分自身の興味や関心を生かしてめあてをもち、自分に合った学習方法を考え主体的に学習に取り組むことができるように単元構成を工夫する。
- ② 児童が自分の言葉で表現し、それぞれのよさを互いに生かし、認め合うことのできる学習活動を工夫する。
- ③ 児童の学習活動を試行錯誤の過程として受け止め、共感的に理解し支援する指導と評価を工夫する。

(2) 研究の方法

研究主題の具体化を図るために、次のような仮説を立て、それに基づいて5つの分科会を構成し、それぞれの分科会研究主題を設定し研究を進める。

研究仮説

言葉をもとに考え、学び合いを通して、互いに認め合う楽しさを感じることで
できる場면을意図的に設定すると、進んで表現する子が育つ。

- 低学年Ⅰ分科会 「言葉に親しみ、思いや考えを楽しく表現し合う学習活動の工夫」
低学年Ⅱ分科会 「言葉との出会いを大切に、思ったことや考えたことを楽しく表現し、
学び合う学習活動の工夫」
3 学年分科会 「言葉に関心をもち、学び合いを通して自分の考えを広げ、表現する学
習活動の工夫」
4 学年分科会 「主体的に言葉とかわり、自分の思いや考えを広げ、表現する学習活
動の工夫」
高学年分科会 「言葉を見つめ、自分の考えを深め、学び合いを通して主体的に表現す
る指導の工夫」

2 研究主題イメージ図

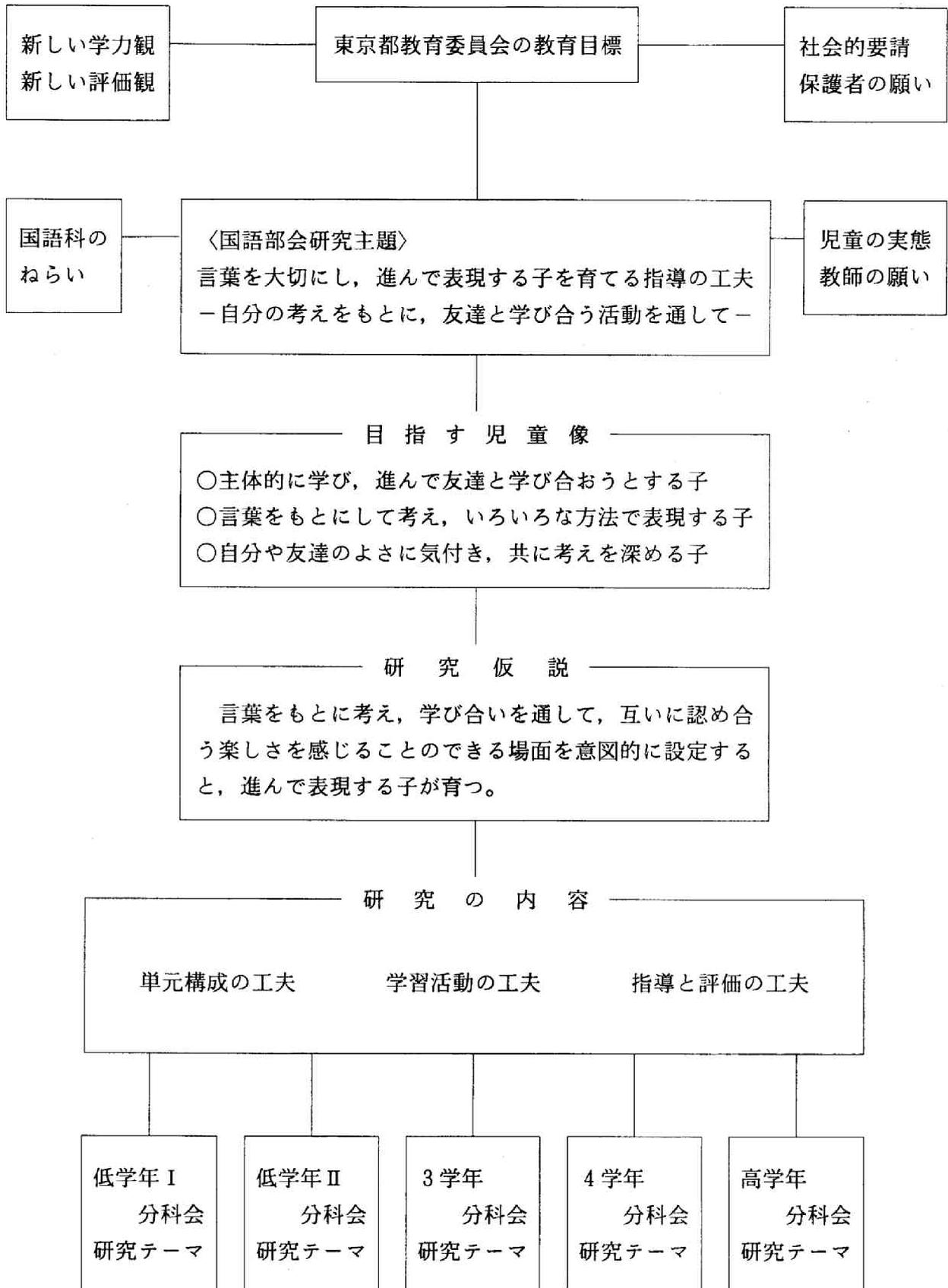
目指す「進んで表現する子」
を育てるために、学習活動の
中での「学び合い」を中心に
考えてきた。

また、学び合いの土台とし
て、個々の「言葉の力」があ
ると捉えた。学び合いのため
には、言葉の力の充実が必要
である。

表現する力は、新しく獲得
された時点では試行錯誤しな
がら活用されるが、やがては
言葉の力として定着し、無意
識のうちに活用できるよう
になる。あたかも、葉が落ちて土
にかえることにより、大地が
肥沃になっていくように、表
現する力が豊かになることが、
言葉の力の充実へとつながる。



3 研究の構想



4 私たちが育てたい「表現する力」とは

○21世紀を生きる子どもたちに身に付けてほしい表現する力を、次のようにとらえた。

① 〈身近な人々に自分の考えを伝えるための表現する力〉

自分自身の思いや考えを、相手や目的に応じて内容や方法を吟味し、適切な言葉を使って、自分らしく伝えることができる力を表現する力ととらえる。

② 〈自分の考えを明らかにするための表現する力〉

新しい言葉に出会ったり、ある言葉を今までの自分のとらえとは違う感じ方でとらえ直したり、未経験のことを経験したりした時に、人は言葉によって、心の中で位置付け、価値付け、確かめ、より明らかにしていこうとする。言葉に表す活動を通して、自分自身の感じ方や考え方を明らかにしていく力を表現する力ととらえる。

③ 〈まわりの言葉を活用して表現する力〉

課題意識をもって“見当をつけ”“適否を考え”“選択して”つかみとった言葉は、友達の発言を借りてきたり、作品や資料の中にある言葉を使ったりしたとしても、それはその子の意識が表れている言葉である。自分のまわりにある言葉を活用しながら伝える力を表現する力ととらえる。

④ 〈情報の発信者としての表現する力〉

高度情報化社会では情報の受信者として必要性、重要性、確実性の高い情報を選択し、その背景にあるつながりや人々の思いや願いまでも想像しながら正確に読みとっていく力が必要とされる。そしてその情報を再構成し、自分の考えを明らかにし、相手や目的に応じて適切に伝えることができる発信者としての力も求められるようになる。受信と発信の情報の双方向性の中で、情報を再構築し、発信していく力を表現する力ととらえる。

⑤ 〈コミュニケーション能力としての表現する力〉

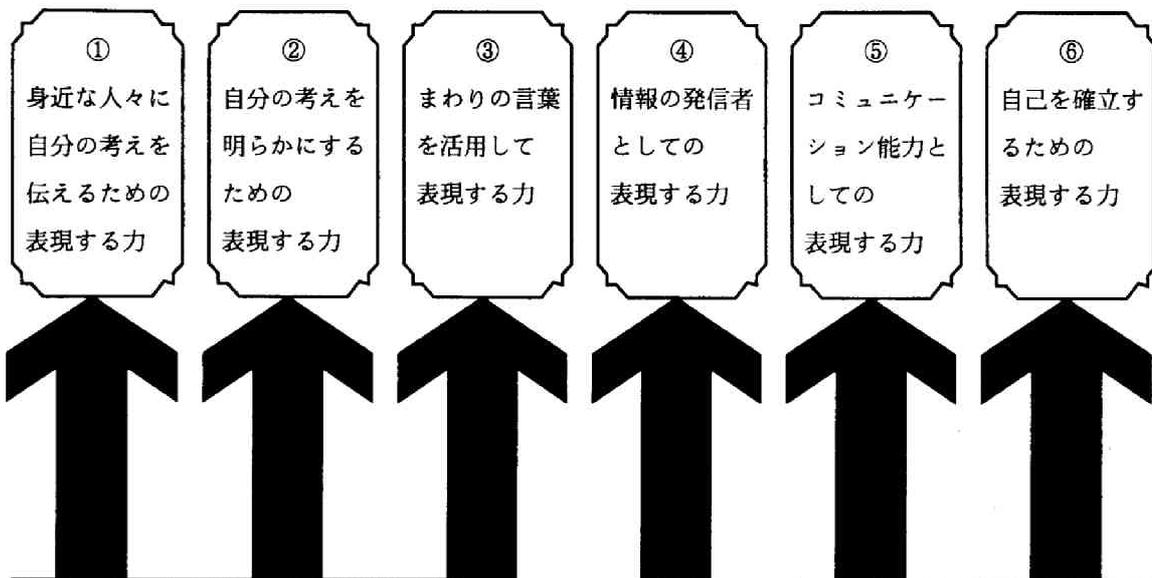
言葉は人と人との心理的な距離を縮めたり、必要な距離をとったり、人間関係をつくり上げていくのにとっても重要な働きをしている。つながりを求め、時には距離を置きながら、言葉を通して、よりよい人間関係をつくり上げていくことができる力を表現する力ととらえる。

⑥ 〈自己を確立するための表現する力〉

人は思いや考えを言葉に表してみることで、自分の意識や他者との違いに気付くことができる。周りの人々とかかわり合う中で自分の感性や言語感覚を磨き、豊かな人間性を身に付けていく。また自分らしさや自分の個性に気付くことで、よりよい自分像に向けて自分自身を育てていく意識や力も身に付いていく。そのような基盤の上に自分の居場所をつくり上げていく力が育つ。言葉を通して、社会の中に自己を確立していく力を表現する力ととらえる。

私たちが育てたい「表現する力」の構想図

〈目指す力〉



〈手立てとなる活動例〉

- 手紙文 観察日記 お話作り 事典・図鑑作り ディベート
 生活文 感想文 朗読（音読） 新聞作り 研究発表 会話
 意見文 吹き出し 絵本作り ○○調べ スピーチ 対話
 招待状 登場人物の日記 ペープサート ポスターセッション
 日記 紙芝居 劇化 パネルディスカッション

- (ねらい) ・教科の目標 ・単元の目標 ・児童個々の目標
 (指導) ・導入の工夫 ・学習指導の工夫 ・教材、教具の工夫
 (支援) ・形成的評価 ・つまずきの把握 ・個別の助言計画

〈教師の願い〉

- ・言葉に表すことで思いや考えを明らかにして欲しい
- ・言葉を使って自分の考えを確立し、発信して欲しい
- ・言葉を通して社会の中に自己を確立して欲しい
- ・自分らしい言葉で伝えられるようになってほしい
- ・言葉を活用しながら伝えられるようになってほしい
- ・言葉を通してよりよい人間関係をつくってほしい

児童の実態

Ⅲ 各分科会の実践

1 各分科会実践の概要

	単元構成の工夫	学習活動の工夫	指導と評価の工夫
低学年Ⅰ分科会	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の興味や発達段階に応じた学習計画を立て、楽しく取り組めるようにする。 ○めあてを明確にし学習の見通しがもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートなどを工夫し自分の思いや考えが生かせるようにする。 ○「おはなしコーナー」など楽しく表現し合える場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○よい表現を取り上げ、言葉に目が向くようにする。 ○互いのよさに気付くよう「きらきらシール」で相互評価する。
低学年Ⅱ分科会	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の生活や体験を生かした単元を構成する。 ○見通しをもって意欲的に学習することができるように、学習の最終のめあてが見えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○読み取ったことを動作化を取り入れて表現する。 ○自分の考えを再確認したり、友達のよさを見付けたりできるような、学び合いを設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○よい表現は全体に紹介しお互いのよさを認め合う。 ○一人一人の思いやつまづきを、カードやワークシートなどから把握し、次の指導の資料とする。
三学年分科会	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の興味や関心を生かし、楽しく表現できる場を取り入れる。 ○学習したことを具体的に活用できる場面を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○絵文字作りを通して、目的意識や相手意識をもち、表現意欲を高める。 ○自分の思いや考えを相手に分かりやすく伝える発表の場を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習計画カードやメッセージカードによって、自己評価・相互評価を行う。 ○一人一人の実態を把握し、話し合いのための支援計画を立てる。
四学年分科会	<ul style="list-style-type: none"> ○教材文の特性を生かし、単元を構成する。 ○学習の最終的な活動目標を設定し、学習の意欲と目的意識や見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○数種類のワークシートや白紙を用意し、様々な方法で表現できるようにする。 ○教材文で学んだことを生かして、ポスターセッションへの活動を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時の評価を基に、個やグループに対して、表現に関する支援を計画的に行う。 ○互いのよさを認め合えるように、交流カードを書き合い、相互評価を行う。
高学年分科会	<ul style="list-style-type: none"> ○発達段階を考慮して、単元の中に自分自身を見つめる活動を位置付ける。 ○成就の活動像を示し、見通しをもって主体的に学習を進められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習活動や表現方法を自分なりに考え選択できるようにする。 ○グループや全体、フリータイムなど多様な学び合いの場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○個表と助言カードを作成して、評価をし、個に応じた指導や支援を行う。 ○よさを中心とする形成的自己評価と学び合いによる相互評価の場を設定する。

2 各分科会における実践事例

低学年 I 分科会

研究主題

言葉に親しみ、

思いや考えを楽しく表現し合う学習活動の工夫

第 2 学年

「きらきらシール」でともだちのいいところをもらおう

(「表現する力」の①を伸ばすことを中心とした単元)

(1) 単元名 お話 おとどけします！

教材名 こんなお話を考えた

(2) 研究主題と単元とのかかわり

児童が言葉に親しみ、自分の思いや考えを楽しく表現し合えるように「お話おとどけたい」になって多くの人に自分たちの紙芝居を見てもらうというめあてを設定した。4枚の絵を見て自由にお話を作ることは、児童が楽しく想像し表現することができる活動であると考えた。

まず、お話作りに取りかかる前に、場面から想像できる言葉を出し合う活動を考えた。それにより、言葉の世界が広がり、自分の表現を作り上げるよりどころになると考えた。また、自分のお話を発表する場を毎時間設けて、友達のよい表現に目を向けられるように「きらきらシール」を用意した。互いのよいところを学び合い、自分の表現に生かそうとする態度を育てたいと考えた。さらに、「おはなしコーナー」を設定して友達と「お手がみカード」を交換することで、意欲付けになると考えた。

(3) 学習指導計画の概要 (全12時間 本時 7/12)

時	主な学習活動 ◇言葉 ☆表現 — 学び合い	教師の○指導 ●支援	◎評価
第一次 ②	自分だけのお話をたくさんの人にとどけよう ・紙芝居をつくって発表することを知り、学習のめあてをもつ。 ◇4枚の絵について、思ったことや考えたことを発表し合う。	●発表し合ったものを常掲して、表現に生かせるようにする。	◎お話を作ろうという意欲がもてたか。 ◎意欲的に発表しているか。
第二次 ⑦	せかいに一つの紙しばいを作ろう ・場面の順番を考え、題名をつける。 ☆自分のお話に出てくるわにがどんなわにか書く。 ☆◇1枚ずつお話を書き、読み合っってよいところを見付けたり書き直したりする。	○よい表現を取り上げ言葉に目を向けるようにする。 ●「きらきらシール」 ●「お手がみカード」	◎話の流れを考えて見通しをもてたか。 ◎友達のよい表現を見つけたか。 ◎自分のお話の表現をよりよくしようとしたか。
第三次 ③	「お話おとどけたい」になろう ☆できあがった紙芝居をいろいろな人に見せる。	●宣伝作りなどをして意欲を高める。	◎相手にはっきりと分かるように読めたか。

(4) 本時の学習 (7/12)

- ① 目標 ・第2場面のお話を発表し合い、友達のよい表現に目を向け、よりよい文にしようとする。
 ・第3場面の様子を考えながらお話を書く。

② 展開

前時までの既習学習		
<ul style="list-style-type: none"> ・本単元の学習のねらいを理解し、お話の流れを考え、第2場面までお話を書いている。 		
学習活動	○指導 ●支援	◎評価
◇言葉 ☆表現 — 学び合い		
2 枚目のお話を読み合ってもっと楽しくしよう。		
1 ☆前時に考えたお話をグループ内で読み合う。 2 ◇いいなと思ったところに「きらきらシール」を貼る。 3 ◇いいなと思ったことを発表する。 ・修飾部（くわしく書いているところ） ・文の順序（つながりのことば） ・言葉の響き（おもしろことば） 4 ☆◇作品を見直す。 ・主に内容について見直し、言葉を付け足すなどして詳しくする。	●様子がよく分かる言葉を見付けられるよう、項目をいくつかあげておく。 ○「きらきらシール」を貼ったところを取り上げ、様子がよく分かる言葉に目を向けられるようにする。 ●1行おきに書ける用紙を用意し、付け足しを容易にする。	◎友達に聞こえるようにはっきりと読んでいるか。 ◎友達のお話のよいところを見付けているか。 ◎様子を詳しくする言葉に興味をもてたか。 ◎自分の作品をよりよくしようとしたか。
3 枚目のお話を楽しく作ろう。		
5 ☆次の場面を書く。 ・第2場面とのつながりを考える。 ・様子がよく分かるように書く。 6 ☆◇書けたら「おはなしコーナー」で2人1組でお話を読み合い、いいなと思ったことを「お手がみカード」に書く。 7 ☆◇お話を付け足したり読む練習をしたりする。 ・自己評価カードを書く。	●前の場面とのつながりを考えるよう助言する。 ●様子がよく分かる文を書く手立てとして一人一人の実態に応じて、はじめに押さえた項目を思い起こすよう助言する。	◎場面の様子を考えて書いているか。 ◎様子を詳しく書こうとしているか。 ◎進んでお話を読み合い友達のよい表現を見付けて「お手がみカード」に書けたか。
次時以降の学習内容		
<ul style="list-style-type: none"> ・第3場面を見直して第4場面を書く。 		

(5) 研究の成果と課題

〈成 果〉

① 単元構成の工夫について

「おはなしおとどけたい」になって、多くの人に自分たちの紙芝居を見てもらおうというめあてをもつことは児童の興味関心に合っており、意欲が持続した。

絵を見てお話を作ることは、児童にとって楽しい活動であった。また、4枚の絵の並べ方を考えることには自由に想像を広げられるよさがあった。

また、できあがった作品を友達や先生、おうちの人に届けたところ、「お手紙カード」や多くのうれしい感想をもらい、発表した満足感が味わえた。

② 学習活動の工夫について

お話作りに取りかかる前に、場面から想像できる言葉を出し合う活動を行うことによって自分のお話のイメージを広げることができた。

授業の流れを、「前時の作品の読み合い→新しい場面の創作」にしたので、友達の表現のよさを取り入れることができた。

書いた自分の作品を発表する場を毎時間設け、いいなと思ったところを意見交換することで、「発表できた」「友達に認められた」という学び合いに生かした。

③ 指導と評価の工夫について

「おはなしコーナー」を設定し、書いたお話を友達と交流することができた。また、いいなと思うところに「きらきらシール」を貼る活動を取り入れた。授業前半の全体での学習の中で、指導した言葉に注目しながら、いいと思ったところにシールを貼っていくことができた。

友達の作品から様子を詳しくする言葉に注目して、よいところを見付けることは難しかったが、自分の作品を繰り返し直している児童も多く、よりよくしようという意欲につながった。

〈課 題〉

- ・言葉に目を向けることについて、個別の支援をしていくことが必要である。
- ・話の内容が広がるように、場面の中で場所の設定をしていく手立てを検討する。
- ・絵から想像した言葉を出し合い掲示しておいたが、お話作りの中で生かしていく手立てを考えていく。

第2学年

「たんぼぼになって、楽しくずかんづくりをしよう」

(「表現する力」の①と③を伸ばすことを中心とした単元)

(1) 単元名 おうちの人に見せてあげよう、わたしのしょくぶつずかん

教材名 たんぼぼのちえ

(2) 研究主題と単元とのかかわり

子どもたちが思ったことや分かったこと、考えたことを楽しく表現できるように、まず「おうちの人に見せてあげよう、わたしのしょくぶつずかん」という学習のめあてをもたせた。毎時間の学習では、時間的経過を示す言葉や様子を表す言葉などに着目させながら分かったことや思ったこと、考えたことを絵や言葉でワークシートに書き、友達と見せ合いながら、自分が気付かなかった友達の表現のよさを見つけて書き加えたり、発表したりした。最後に、自分で調べた植物について資料を見つけて、図鑑を完成した。

たんぼぼに話しかけたいことを、吹き出しに書いたり、お互いに見せ合ったり、発表したりする中で、友達のよさに気づき、楽しみながらも力が付き、認め合えるような学習にしたいと考えた。

(3) 学習指導計画の概要 (全13時間 本時 8/13)

時	主な学習活動 ◇言葉 ☆表現 — 学び合い	教師の○指導 ●支援	◎評価
第一次 ②	<ul style="list-style-type: none"> 全文を読み、学習のめあてをもつ。 ☆感想を書き、発表する。 友達の意見を聞き合う。 段落分けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の見通しをもたせる。 ○学習課題をつかませる。 ●絵や、写真を提示する。 ●3色のカードを用意する。 	◎学習課題をつかむことができたか。
第二次 ⑦	<ul style="list-style-type: none"> ◇☆時間的経過を表す言葉や様子を表す言葉に注目しながら、読み取ったり、ワークシートにかいたりする。 友達の考えと比べたり、よさを取り入れたりして、発表を聞き合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○主述や時間的経過を表す言葉に注目させ、たんぼぼのちえを読み取らせる。 ●全員が学び合えるように 個→グループ→全体の流れで学習を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎様子やわけを読みとることができたか。 ◎友達のよさに気づき、伝え合うことができたか。
第三次 ④	<ul style="list-style-type: none"> ☆自分で調べたい植物の資料を探し 図鑑の最後のページをつくる。 ☆図鑑の発表会をする。 ・家の人に見せる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○分かりやすく工夫してつくらせる。 ●感想を書くカードを用意する。 	◎楽しく工夫して図鑑をつくることができたか。

(4) 本時の学習 (8/13)

① 目 標

- ・たんぼぼになって、表現しようとする。
- ・倒れていた軸が起き上がり、伸びていく様子とわけを読み取る。
- ・たんぼぼの様子を思い浮かべて、ワークシートに絵と言葉でかく。
- ・友達の意見を聞き、考えのよさに気付いたり、書き加えたりする。

② 展 開

前時までの既習学習		
<p>・学習のめあてをもち、綿毛になるまでの様子とちえを読み取っている。</p>		
学 習 活 動	○指導 ●支援	◎評 価
◇言葉 ☆表現 —学び合い		
<p>1 今日の学習のめあてをつかむ。</p> <p>2 学習場面を音読し、本時のめあてを確かめる。</p>	<p>○前時までのワークシートを見ながら学習を振り返らせる。</p>	<p>◎本時のめあてが、つかめたか。</p>
<p>たおれていたじくがおきあがり、のびていく様子とわけを考えよう。</p>		
<p>3 ◇「このころ」のたんぼぼの様子を読み取る。</p> <p>☆「せのびをするように」「ぐんぐん」を動作化し、発表する。</p> <p>☆友達のよいところを取り入れて一緒に動作化する。</p>	<p>○サイドラインを引かせる。</p> <p>○勢いよく伸びている様子を動作化で、表現させる。</p> <p>●たんぼぼの模型で、確認する。</p> <p>●動作化したことを生かして描くように、助言する。</p>	<p>◎伸びていく様子を読み取ることができたか。</p> <p>◎倒れていた軸が起き上がり、伸びていく様子が分かったか。</p> <p>◎軸が勢いよく伸びていく様子を絵に表すことができたか。</p>
<p>4 ☆ワークシートに、たんぼぼの軸が伸びていく様子と、綿毛を描き、<u>近くの子と見せ合う。</u></p>		
<p>5 なぜ、こんなことをするのかわけを考えて、吹き出しに書く。</p>	<p>●吹き出しを書きやすくするために支援発問をする。</p>	<p>◎たんぼぼの知恵を読み取り、わけを書くことができたか。</p>
<p>6 <u>友達の考えと比べ、よさに気付く。</u></p>		<p>◎友達の考えのよさに気づき、伝え合うことができたか。</p>
<p>7 書いたものを発表し合い、まとめる。</p>		
<p>次時以降の学習内容</p> <p>・たんぼぼの様子とちえを読み取り、<u>図鑑</u>にまとめる。</p>		

(5) 研究の成果と課題

〈成 果〉

① 単元構成の工夫について

- ・「おうちの人に見せてあげよう、わたしのしょくぶつずかん」というめあてをもつことにより、児童が見通しをもって「たんぼぼのちえ」を学習することができた。また、家の人に早く見せてあげたい、たんぼぼ以外の植物も調べてみたいと意欲が継続し、楽しく学習することができた。身近な教材なので、生活科とも関連付けながら学習を進めることができた。実物のたんぼぼを自分の目で見たり触れたり、教科書に書かれている文章と比べたり確かめたりしながら、体験を通して学習をすることができた。
- ・自分で調べたい植物を、「おまけのページ」として載せることを楽しみに学習を進めた。家の人と調べる植物について相談したり、図書館にいったり調べるなど自分で調べてかく楽しさを味わい、読みやすい図鑑を作る工夫をした。

② 学習活動の工夫について

- ・その場の読み取りが表れるように、図を一部かき加えたり吹き出しに言葉を入れたりできるワークシートにしたので、本文の言葉を手掛かりに読み取ろうとするようになった。また、ページが増えるごとにたんぼぼの成長が分かりやすく、学習の積み重ねが実感でき、楽しく表現することができた。
- ・たんぼぼになって動作化することによって、様子を詳しく読み取ることができた。
- ・着目させたい言葉（主語・述語・時間の経過を表す言葉・様子を表す言葉）にサイドラインをつけたり、カードに書いたりすることにより、読み取りが深まった。
- ・個→グループ→全体→個という学習の場を設定した。このことによって、「自分の考えをもつ。自分の考えと友達のを比べる。全体の交流でより多くの友達の考えを知る。個に戻り友達のよいところを取り入れて自分の考えを広げる。」ということができた。

③ 指導と評価の工夫について

- ・図鑑づくりの最後に、図鑑を見せ合う時間をつくった。たんぼぼのちえがよく書けているところ、おまけのページで工夫しているところなど、よいところを見つけてピカピカカードに書いて友達とプレゼントし合った。相互評価をすることによって、互いのよさや学習の成果を認め合うことができた。

〈課 題〉

- ・前時までの学習の振り返りの時や重要な言葉と結び付く場面の読み取りの時に、ワークシートをもっと活用していく。
- ・学び合う時間を十分確保するために、言語指導や書き込みの時間等を整理し、時間配分を工夫する。
- ・交流の仕方（場、グループの構成）を工夫し、より質の高い学び合い学習ができるよう支援していく。

第3学年

友達との学び合いを通して、自分の考えを分かりやすく表現しよう

〔表現する力〕の①と⑤を伸ばすことを中心とした単元)

- (1) 単元名 学校に役立つ絵文字を作って紹介し合おう
教材名 くらしと絵文字

- (2) 研究主題と単元とのかかわり

本教材は、私たちの身近にある絵文字が時代を超えて人々の暮らしに役立っている理由を、絵文字の特長から考えて述べている。また、論理的に分かりやすく書き進められており、絵文字の特長をとらえやすい説明文である。そこで、教材から学んだ絵文字の特長を基にし、効果的な表現方法を取り入れた学習活動を設定した。

身近な生活に結び付いている絵文字を取り上げ、相手意識や目的意識をはっきりさせて絵文字を作ることで、表現意欲を高めていった。

そして、学び合いの場を設けることにより、自分の考えを確認したり、友達の表現のよさに気付いて自分の考えを広げることができるようにした。さらに、自分の作った絵文字を紹介し合うことで、要点を押さえながら話したり、話の内容を正確に聞いたりする力が育つと考えた。

- (3) 学習指導計画の概要（全11時間 本時 10/11）

時	主な学習活動 ◇言葉 ☆表現 — 学び合い	教師の○指導 ●支援	◎評価
第一次 ①	<ul style="list-style-type: none"> ・絵文字を見て気付いたことを紹介し合う。 ・単元全体のめあてを知る。 ◇絵文字を探して書きためる。	<ul style="list-style-type: none"> ●絵文字のよさや特長に気付かせる。 ○紹介カードの書き方を知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎絵文字に興味・関心をもち進んで話そうとしていたか ◎進んで探して書くことができたか。
第二次 ④	<ul style="list-style-type: none"> ・調べた絵文字を見て気付いたことを話し合う。 ◇☆絵文字の特長を教材文で確かめ、書き表し、発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ●話し合いの手引きを用意する。 ○絵文字の果たす役割を押さえる。 ●ワークシートを用意。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎気付いたことを話し合うことができたか。 ◎絵文字の定義と特長を読みとれたか。
第三次 ⑥	<ul style="list-style-type: none"> ・学校のどこにどんな絵文字を作るとよいか話し合う。 ◇自分の絵文字を作り、紹介するための原稿を作る。 ◇☆グループ内で紹介し合い、説明の仕方を工夫する。 ☆自分の絵文字を紹介し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ●理由を話すように助言する。 ○教材文を生かして書く。 ●既習学習を想起させる。 ●質問やアドバイスの視点を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎絵文字の必要性を話すことができたか。 ◎教材文を生かして書くことができたか。 ◎要点を押さえて分かりやすく紹介をしたか。

(4) 本時の学習 (10/11)

- ① 目標
- ・自分の作った絵文字について、分かりやすく説明する。
 - ・友達の説明を聞いて、感想を話したり質問をしたりする。
 - ・よりよい表現の仕方に気付き、自分の表現の中に生かす。

② 展開

前時までの既習学習		
<ul style="list-style-type: none"> ・集めた絵文字を教材文を参考にして、学校に役立つ絵文字を作り、説明する原稿を書く。 		
学 習 活 動 ◇言葉 ☆表現 — 学び合い	○ 指導 ● 支援	◎ 評 価
1 前時までの学習を想起し、本時のめあてをつかむ。	●学習の流れを掲示物で示す。	◎学習のめあてをつかむことができたか。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 自分の作った絵文字をグループに紹介しよう。 </div>		
2 説明の仕方や聞き方を確認する。 ・作ったわけや工夫したところ ・教材文の表現を取り入れているか。「～ですね」「第一は」「例えば」など	○声の大きさ・速さなど話すときに気を付けることを確認する。 ○質問や感想を話すときの視点を示す。	
3 <u>自分の作った絵文字をグループ内に紹介し合う。</u>	●適切な発表ができていないかグループごとに助言する。	◎自分の伝えたいことを友達に伝えたか。 ◎友達の話の内容を聞き取り質問や感想を話したか。 ◎よりよい表現の仕方に気付いたか。
4 ◇☆紹介し合ったことを基に、加除修正し、より分かりやすい表現にする。	●修正したものをグループ内で聞き合ってもよいことを助言する。	
5 友達のアドバイスで変わったところや、友達の説明のよいところを全体に紹介する。	●他のグループの友達のよさにも気付かせる。	◎友達のよさに気付いたか。
6 学習を振り返る。	●自己評価カードを用意する。	
次時以降の学習内容		
<ul style="list-style-type: none"> ・完成した絵文字を紹介し合い、友達のよいところを見付ける。 		

(5) 研究の成果と課題

〈成 果〉

① 単元構成の工夫について

「校内に役立つ絵文字を作ろう」という目的を設定し、課外の時間を活用して、身の回りの絵文字を集める学習活動を最初にもってきたことで、いかに絵文字が自分たちの生活と密接に結び付いているかが分かり、意欲的に絵文字作りへと発展できた。また、最初に絵文字を集め、友達と紹介し合い、自分なりに絵文字の特長を把握した上で、教材文を読んでいった。このことから、教材文の理解がスムーズにできた。最後に自分たちの作った絵文字が実際に校内に貼られたことが大きな喜びとなり、次の主体的な学習につながった。

② 学習活動の工夫について

- 学び合い学習は、相互交流の場と捉えた。グループや全体での学び合いでは友達の意見や考えを参考にしたり、よさを取り入れたりして自分の考えを広げたり、深めたりしていくようにした。そのために、考える視点を分かりやすく提示し、自分の考えの広がりが見えてくるような学習カードの工夫をした。
- 学び合いの場での考えの交流を活発にするために、話すときや聞くときのポイントを示したり、話し合いが円滑に進むように話し合いの手引きを作ったりし、活用できるようにした。
- 相手に分かりやすく伝えるために自分の考えを原稿やメモにし、話し合いを工夫するようにした。その時、教材文で学んだ分かりやすい書き表し方やつながり言葉などの既習事項を掲示して意識させ、自分の文章や話し言葉に取り入れていけるようにした。自分の考えた絵文字についての説明を、相手に分かりやすく、自分の言葉で再構成することによって実践的な力がさらに身に付けられるものとする。

③ 指導と評価の工夫について

児童の興味や関心を十分に生かすことにより、友達と考えを伝え合おうとする意欲も増してきた。また、自分の話し方や聞き方を振り返りながら、次の学習に望めるようにした。

説明文を書く際のワークシートを実態に応じて何種類か準備し、選択させた。既習の教材文を参考にすることなどで書くことへの抵抗を和らげるように配慮した。

〈課 題〉

- 学び合いの中で、多くの児童が友達のよい表現に共感することができたが、自分の表現に取り入れることにも目を向けさせていく。
- 聞く話す活動を単元全体の中で、どのように組み入れていけば、有効であるか、さらに工夫する。
- 自己評価カードのより有効な活用のあり方を検討していく。

第4学年

ポスターセッションで表現力を高めよう！

（「表現する力」の②と④を伸ばすことを中心とした単元）

- (1) 単元名 松井さんファンタジーの世界を旅しよう

教材名 白いぼうし

- (2) 研究主題と単元とのかかわり

教材文「白いぼうし」は主人公と登場人物の交流が楽しく温かく描かれ、言葉の楽しさ、巧みさといったものにふれることができる作品である。したがって、「進んで表現する子」を育てるための支援として、自分たちで読みの視点を決め、自分に合った方法で表現し、ポスターセッションで交流し、読み広げていくという学習方法を考えた。

- (3) 学習指導計画の概要（全12時間 本時 11/12）

時	主な学習活動 ◇言葉 ☆表現 — 学び合い	教師の○指導 ●支援	◎評価
第一次 ①	☆あまんきみこ作品「 <u>小さなお客さん</u> 」「 <u>うんのいい話</u> 」を聞き感想をもつ。	●読み聞かせをし、登場人物についてイメージを膨らませることができるようにする。	◎作品や学習に対して興味をもつことができたか。
第二次 ②	☆「 <u>白いぼうし</u> 」を読んで感想をもつ。 ◇ <u>学習課題をつくる</u> 。	○感想や疑問を生かして、読みのめあてを作る。 ●学習の見通しをもたせる。	◎疑問に思ったことをもとに、学習課題をつくることができたか。
第三次 ④	◇☆ <u>1～4場面を読み、登場人物の心情や場面の様子を読み取り、話し合う</u> 。 ☆読み取ったことを自分の好きな方法で表現する。	●人柄や色などを表す言葉を手がかりにするように助言する。 ●多様な方法で表現できるようワークシートを工夫する。	◎読み取ったことを自分なりに表現できたか。
第四次 ⑤	◇「 <u>車のいろは空のいろ</u> 」の他作品を読む。 ☆好きな方法で表現する。 ☆◇ <u>ポスターセッション</u> をする。 ◇☆他作品と「 <u>白いぼうし</u> 」との共通点・相違点を確認する。	●他作品の用意と共に各グループに適した表現方法の助言をする。 ●「 <u>白いぼうし</u> 」と比較した読みや、同じテーマで他作品を追求していく。	◎「 <u>車のいろは空のいろ</u> 」を読みファンタジーの世界にひたることができたか。

(4) 本時の学習 (11/12)

- ① 目標 ・自分たちで選んだ作品を、自分たちで考えた表現方法で発表することができる。
 ・友達の発表を聞いて、他作品への関心をもつ。

② 展開

前時までの既習学習 ・「白いぼうし」を読み取り、読み取ったことを自分の好きな方法で表現した。 ・「車のいろは空のいろ」の中から好きな作品を選び、読み取ったことをテーマにそって好きな方法で表現した。		
学 習 活 動 ◇言葉 ☆表現 — 学び合い	○ 指導 ● 支援	◎ 評 価
1 ◇☆本時のめあてについて確認する。 ・発表者はテーマにそって、分かりやすく発表する。 ・聞き手は「白いぼうし」と比較しながら聞き、感想をもつ。	○自分たちのテーマを確認させる ・松井さんの性格、おもしろいところ ・におい、色、きれいなところ ・ふしぎなところ ・事件と場所 ○学習の進め方を知らせる。	◎テーマにそって発表したり、聞いたりするということが確認できたか。
ポスターセッションをして、ファンタジーの世界を旅しよう。		
2 ◇☆自分たちが読んだ作品の紹介を、それぞれの表現方法で紹介する。 ・インタビュー・詩・紙芝居 ・ペープサート・QアンドA <前半グループ> ほかのグループの発表を聞いて分かったこと、気付いたことをカードに書く。 <後半グループ>	●交流カードを用意する。 ●適切な発表ができているか助言する。 ●技能面だけにかたよらず、内容にふみこんだ感想が書けるように助言する。 ●書けない子には、書く視点を助言する。(発表グループのテーマを確認させる等)	◎分かりやすく相手に伝えようとしているか。 ◎「白いぼうし」と比較しながら聞こうとしているか。 ◎テーマにそって交流カードを書いているか。 ◎意欲的に交流しようとしているか。
3 ◇☆前半グループと後半グループが入れ替わる。		
4 ◇☆友達からもらったカードをグループで読み合い全体で感想交流する。		
次時以降の学習内容 ・「車のいろは空のいろ」の他作品を読み、「白いぼうし」との相違点、共通点を意識しながら、読書を楽しむ。		

(5) 研究の成果と課題

〈成 果〉

① 単元構成の工夫について

- ・導入で「車のいろは空のいろ」の作品の中から読み聞かせをした。そのことによって、教材「白いぼうし」への興味・関心をもつことができるようにした。
- ・教材の特性にあった学習課題を自分たちで作り出したことで、単元全体の見通しをもって学習活動を展開することができた。この読みの視点は最後まで生かされた。
- ・ポスターセッションをする目的があったため、児童は主体的に教材にかかわり、意欲を持続させながら、楽しんで活動することができたといえる。アンケート結果からもポスターセッションを取り入れた単元構成は、児童一人一人に「表現するって楽しいな」という思い、喜び、満足感を残すことができたと思われる。
- ・読書→読解→読書という流れで単元構成したことで、読書活動に広がりがあった。

② 学習活動の工夫について

- ・読みの視点にそって全体を読み通す読解の方法をとったことは、自分たちで他作品を読み進める力となり、ポスターセッションでの表現でも生かされた。
- ・様々なワークシートを用意したことによって、自分に合った方法を選択し、表現することができた。ここで、いろいろな表現方法を学んだことが、やがてポスターセッションで生かされることとなった。
- ・最初はワークシートを選択していた児童が最後には白紙を選択するようになったことから、児童は進んで表現し、創り上げていく楽しさを味わっていたと思われる。
- ・児童は、ポスターセッションに向けて「白いぼうし」と比較して、共通点や相違点を見付けようと意識しながら読み深めていった。そして、その作品をどのような表現方法で紹介するか、話し合い、創り上げていく過程が、実に生き生きと活動的であった。
- ・ポスターセッションでは何度も発表することによって、表現がより確かなものになり、自信をもって発表していた。
- ・ポスターセッションで友達の発表から新たな表現方法を知ることができた。また、話し合いや発表会を通して友達のよさに気づき、学び合うことができた。

③ 指導と評価の工夫について

- ・様々な表現方法を知り、選ぶことができるようにワークシートを工夫した。また、ワークシートから読みの実態を把握し個やグループに応じた表現方法の助言や支援ができ、意欲と自信を与えることができた。
- ・ポスターセッションの際、感想交流したことで、お互いのよい点を認め合い、学習に対する満足感を得ることができた。

〈課 題〉

- ・聞く話すのめあてをしっかりとっていないと、ポスターセッションがお楽しみ会的になってしまう。ここでは、「白いぼうし」で学んだ読みの視点が共通のベースとなっているので、「白いぼうし」と比較するという視点を発表者と聞き手をもつことが必要である。このことにより、お互いの交流も、もっと活発になると思われるのでさらに工夫していく。

第6学年

自分の成長について振り返り、考えを深め表現しよう！

(「表現する力」の②と⑥を伸ばすことを中心とした単元)

- (1) 単元名 私の成長発表会～卒業まであと200日～

教材名 「石うすの歌」他

- (2) 研究主題と単元とのかかわり

高学年は、自我の目覚めの時期、一人一人の個性が、より顕著に見えてくる時期である。このような時期に“自分の成長”を振り返り見つめてみることは、自分そのものを知ることにとどまらずに、他者の存在や気持ちに気付いたり、物語の中の登場人物の心情をより深く理解するのに有効である。そして自分を知ることは、自分自身を肯定的にとらえ、思いや考えを積極的に表現する活動が活発になり、生きる力へとつながっていく。6年生という卒業を意識できる学年のため、「成長」というキーワードにも、自然に目を向けることができる。また、取材能力も向上してきている。このような発達段階の特長を生かして、『石うすの歌』で得た視点をもとにして、手引きを参考に様々な資料を活用しながら、自分を見つめていくという単元を構想した。

単元を進める上で、5つのコースを設定し、選択制にした。個表や助言カードを作ることで、個別に支援ができるようにし、学び合いの場では、コーナーを設け、自由に話し合う「フリータイム」を設定することで、児童が主体的に表現する力が育つと考えた。

- (3) 学習指導計画の概要(全12時間 本時10/12)

時	主な学習活動 ◇言葉 ☆表現 —学び合い	教師の○指導 ●支援	◎評価
第一次 ③	◇成長という言葉について思っていたことを話し合う。 ☆石うすの歌の初発の感想を書き学習課題を交流し合う。 ◇自分の読みの課題を決める。	○登場人物と自分の成長との比較であることを押さえる。 ●成長について自分の体験を振り返るよう助言する	◎単元全体の見通しをもったか。 ◎友達と意見を交えながら言葉を見つめ課題を探したか。
第二次 ③	◇☆千枝子の成長について、好きな方法を選択し、読みの課題に迫る成長ノートを作成する。 ・フリータイムで自由に交流する。	○似た課題の児童でグループ編成をする。 ●様々な表現する活動の場を設定する。	◎友達との読みの違いに気付き、自分のノートに生かそうとしたか。
第三次 ⑥	☆「私の成長」について取材し、成長に関するノートを作る。 ・友達の意見を付け加える。 ☆発表会を行う。	○交流の場を通して、より考えを深めさせる。 ●資料や手引きを用意し、コーナーを設ける。	◎自分の成長や生きる姿を見つめることで本単元の達成感がもてたか。

(4) 本時の学習 (10/12)

- ① 目 標 ・友達と成長について話し合い、成長についての考えをまとめる。
 ・友達と学び合いながら成長についてのノートを作成する。

② 展 開

前時までの学習活動		
・自分の成長について、取材した「成長」と比較しながら自由にノートに表現する。		
学 習 活 動 ◇言葉 ☆表現 — 学び合い	○ 指導 ● 支援	◎ 評 価
1 ノートを読み返して前時までの学習を想起する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 友達のノートの内容や、表現のよいところを学んで「成長に関するノート」を作成させよう。 </div>	○学習の流れを掲示する。	◎自分の活動の流れを確認したか。
2 ☆ノート作成の続きを行う <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> 読書コース 自分で探した図書資料で成長について調べる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> 人物の言葉コース 伝記などで成長に関わる言葉を調べる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> 自分振り返りコース 自分の成長について家族先生友人から聞き、資料を活用する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> ビジュアルコース ビデオやマンガを活用して調べる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> オリジナルコース 自由に取材し、資料を集めて調べる。 </div>	●それぞれのコースには、成就像をとらえた手引きを用意する。 ●コースごとにコーナーを設けて自由に活動できるようにする。 ○自分の考えが変わったり、付け加わったりしたものは分かるように書くことを指示する。 ○話し合いの観点を示す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 自分の考えと違うこと 自分の知らなかったこと いいなあと思ったこと </div> ●付箋紙を活用して、感想の交流が活発になるように促す。	◎自分の課題に意欲的に取り組んでいるか。 ◎コーナーや、資料を有効に活用しているか。 ◎視点や根拠をはっきりさせてお互いの考えを交流したか。 ◎自分の考えと、友達の考えとの違いや、共通点に気づき、自分のノートに生かしたか。 ◎発表会に向けて単元の課題に基づいた作品ができたか。
3 ・フリータイムでノートを見せ合ったり考えを述べ合ったりする。 4 ・中間報告をする。 5 ・聞き手は感想をメモに書き話し合う。 6 ☆今までの話し合いを参考にしながら自分ノートを完成させる。		
次時以降の学習内容		
・効果的な表現を工夫して、「私の成長発表会」を行い、まとめる。		

(5) 研究の成果と課題

〈成 果〉

① 単元構成の工夫について

- 自分の成長を振り返りながら、興味や関心に応じて、広く教材を選択できる単元構成を工夫したことで、児童の自己決定の機会を増やし、進んで表現しようという意欲をひき出した。
- 成就像を明らかにするため、活動の掲示を工夫したことにより児童が学習の流れをよく理解し、主体的な学習ができた。
- 成長の視点を得るために、『石うすの歌』を共通の教材として活用したことは、「私の成長」についての手掛かりとして、適切であった。

② 学習活動の工夫について

- 児童は、課題意識に応じて活動を選択・計画したことにより、表現に適した資料を活用することができ、表現力の向上へつながった。
- 「私の成長」をまとめる時の表現方法を、児童が選択できるようにしたことで、児童の活動が活発になった。
- 5つのコースにそれぞれ、資料などを置いたコーナーを設定し、児童が必要に応じて活用できるようにした。その結果、個性豊かなノートの完成に役立ち、主体的に表現することにつながった。
- フリータイムで、自由に話し合う活動は有効であった。助言が欲しい時や必要な情報を得たい時に、児童相互が活発に交流することができた。作品にも友達からの助言や情報を生かしたことが、学習の楽しさを引き出し、満足感・成就感にもつながった。
- グループによる話し合い、付箋紙での感想交流、学級全体に対する発表など、様々な形態や方法を取り入れ、学び合いを行ったことにより、活動の場を多く設定でき、児童の交流が活発になった。

③ 指導と評価の工夫について

- 児童の実態に応じて、学習に対する評価や今後の支援の方向を示した個表を作ることにより、個に応じた支援を行うことができた。その結果、児童一人一人が、よりよい「私の成長」ノートを作ろうという意欲や、自信をもつことにつながった。
- 一時間ごとに付箋紙による助言カードを作成することにより、児童一人一人のよさや適切な支援を、教師が具体的にイメージすることができた。同時に記録として残ることにより、繰り返し教師の助言に立ち返ったり、自分自身の学習の流れを振り返る、形成的自己評価に役立てたりした。また、友達からの感想・意見・アドバイスのカード同様に相互評価に役立ち、交流や活動に生かされた。

〈課 題〉

- 学習活動が多様化した際に、コーナーを更に工夫したり、チームティーチングを導入したりするなど、より個に応じた支援の仕方を研究していく。
- 今回の学習により、獲得した自分らしさや自分のよさに対する視点を他教科や領域、さらには日常生活の中でも活用できるような取り組みについても研究を深める。

IV 研究の成果と課題

学び合いを通して、言葉をもとに考えたり、互いに認め合ったりする楽しさを感じることでできる場面を意図的に設定し、進んで表現する子を育てる指導の研究を進めてきた。この研究により、次のような成果を得るとともに、課題も明らかになった。

1 成果

(1) 興味や関心を生かした単元構成の工夫

興味や関心に応じて、広く教材を選択できる単元構成は、進んで表現しようとする児童の意欲を引き出した。教材の特性を生かして学習課題を自分たちで作りに出したことで、単元全体の見通しをもって学習活動を展開することができた。また、児童の実態に応じて身近な話題や題材を取り上げることによって興味を持続し、学習を広げることができた。

(2) 自分の言葉で表現し、学び合う学習方法の工夫

様々な学習活動を選択できる場を設定したことによって、児童は自分に合った学習方法や表現方法を選んで表現することができた。多様な表現方法に触れたり、自分とは違う見方や考え方に気付いたりすることにより学び合う楽しさを味わっていた。感想交流、全体での話し合い、発表会など様々な形態や方法で学習したことにより、児童は共に学び合う中で友達のよさに気付き、自分の考えに自信をもち、より深めることができた。

(3) 共感的に理解し支援する指導と評価の工夫

児童一人一人の実態を把握し、自分の思いや考えを表現する活動の中で、個やグループに応じた助言と支援を行ったことが、児童一人一人に意欲と自信を与えることができた。

また、学び合いを通して自分を振り返り、自己評価や相互評価を行うことにより、お互いの考えや表現のよいところを認め合うことができた。このような活動を通して、自分から進んで表現する力が高まり、お互いを尊重する態度を養うことができた。

2 課題

- 児童一人一人への適切な助言や言葉がけにより進んで表現する力は育ったが、さらにその力を日常生活で活用できるように研究を深める。
- 他教科との関連を考えながら、国語科で、いつ、どんな表現力を育てるのか、学年の系統性を考えた年間指導計画の見直しと充実が必要である。